

2021年(第28回)コスモス国際賞 受賞者

ピーター・ベルウッド博士

オーストラリア国立大学名誉教授
イギリスおよびオーストラリア



考古学と言語学の学際的研究による「初期農耕拡散仮説」を提唱し、
農耕の起源と初期農耕民の移動・拡散過程を明らかにするとともに、
この研究をとおして、自然と人間との共生の歴史を統合的な視点から
探究した。

2021年(第28回)コスモス国際賞 受賞者

ピーター・ベルウッド

オーストラリア国立大学名誉教授



- 生年:

1943年8月10日 (77歳)

英国、レスター生まれ

- 国籍:

イギリス・オーストラリア

- 現職:

オーストラリア国立大学名誉教授

- 専攻:

考古学

- 学歴:

1966年 ケンブリッジ大学 学士

1969年 ケンブリッジ大学大学院 修士

1980年 ケンブリッジ大学大学院 博士





愛犬と共に(19歳の頃)



英国ノーサンプトンシャー州での
発掘調査 (1965年)



イースター島ラノ・ララクにて
(1975年)



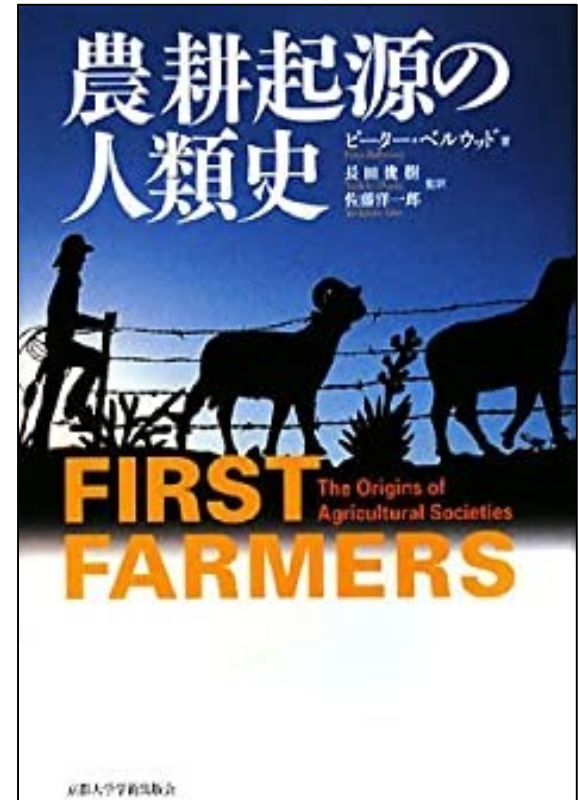
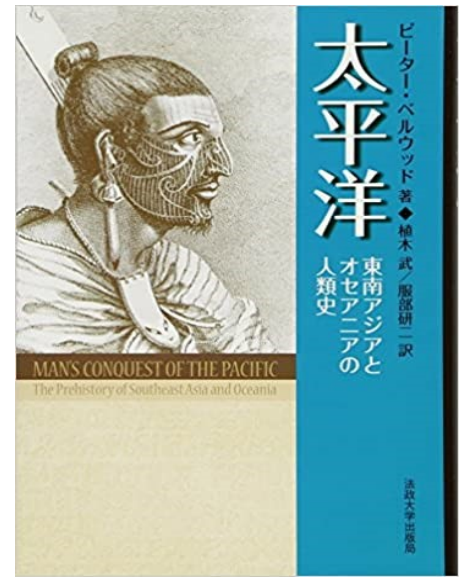
インド太平洋先史時代協会の
第12回大会での発表(1985年 フィリピン)



インドネシア・ボルネオ島での遺跡
発掘調査のメンバーと共に (2014年)

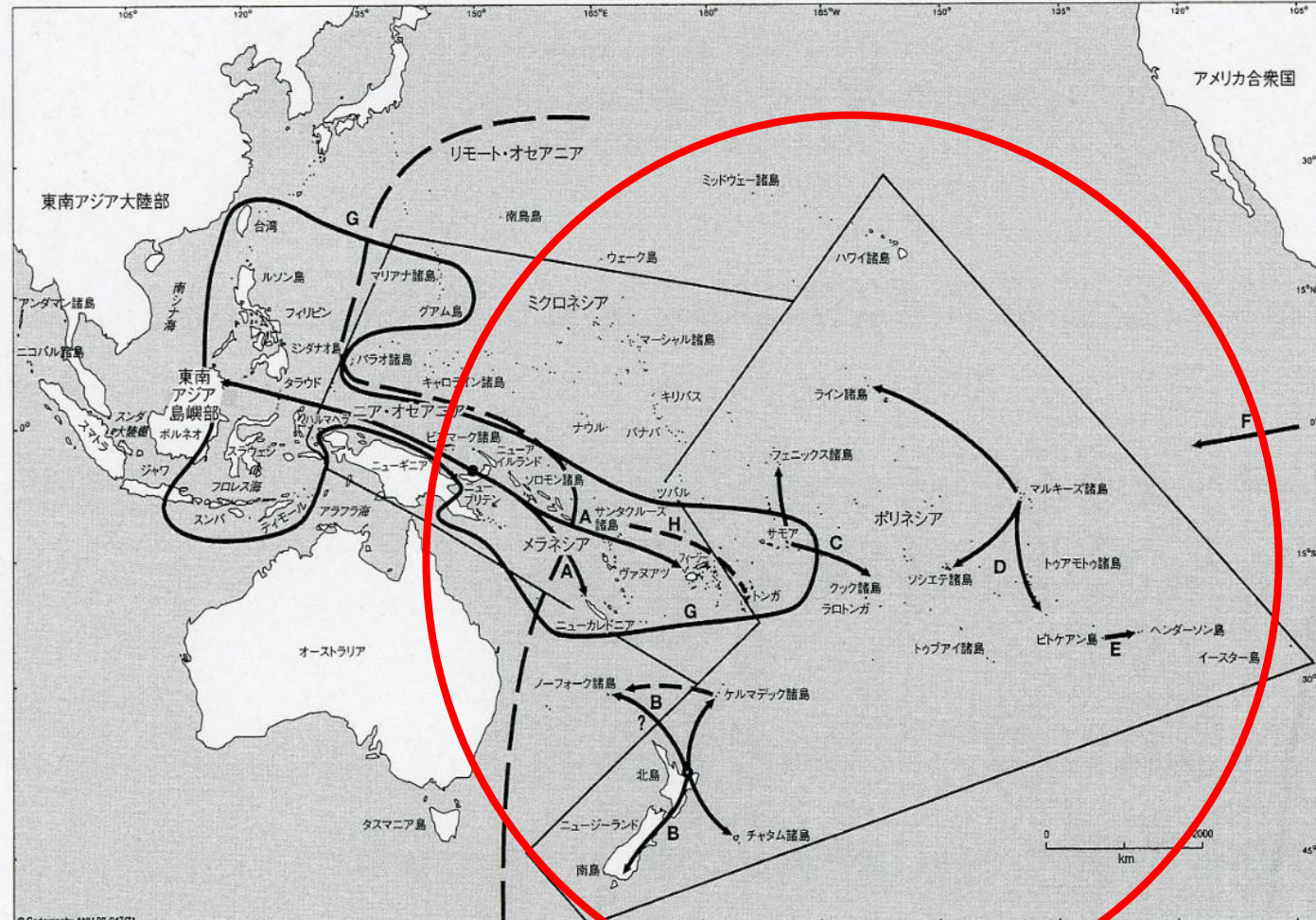
ベルウッド博士の業績

- その1 ポリネシア人およびオーストロネシアの初期農耕民の移動と拡散
- その2 人類の移動史：『初期農耕拡散仮説』の提示
- その3 東南アジアの島嶼部での人類の適応



【研究業績 その1 ポリネシア、オーストロネシア】

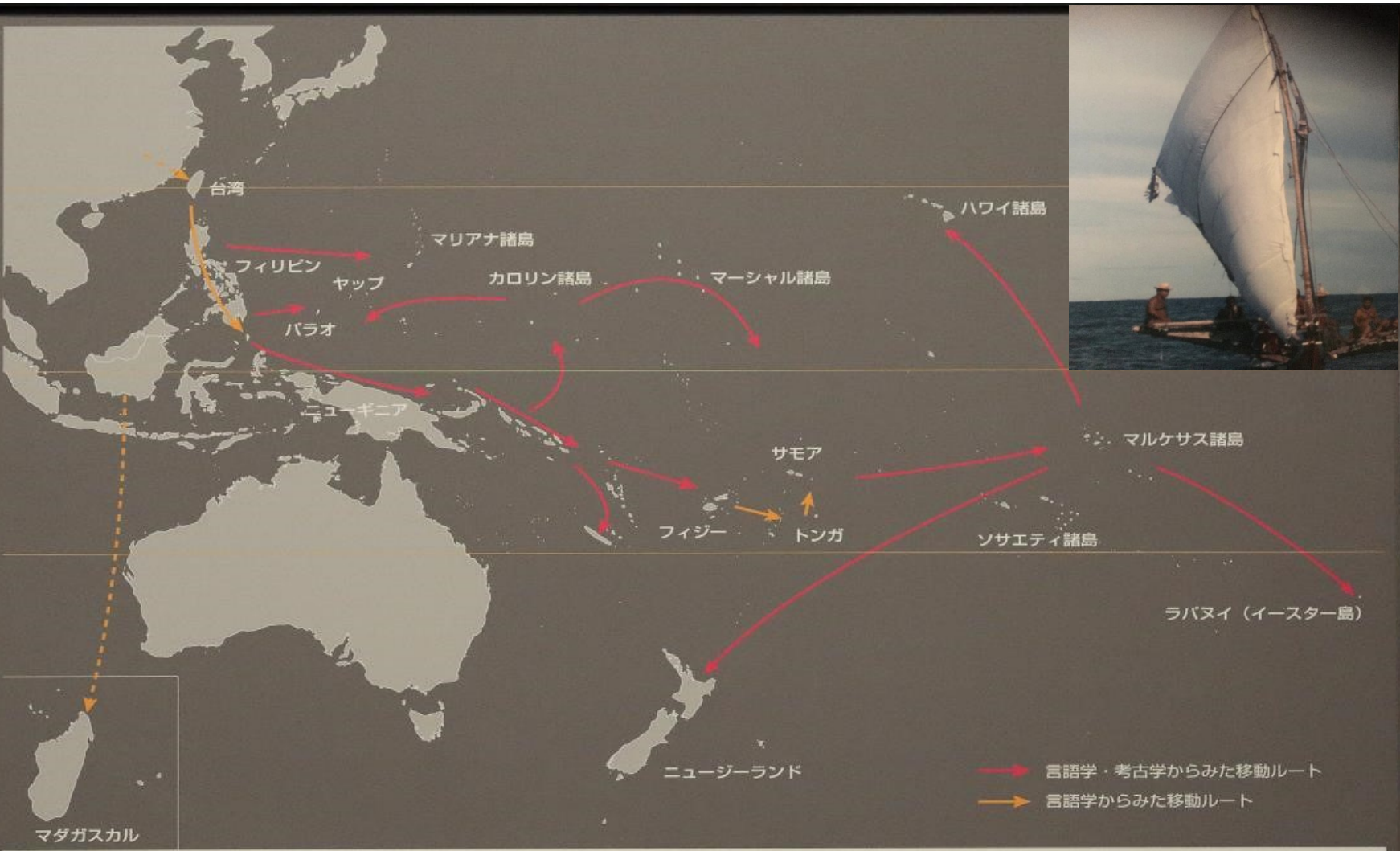
1) メラネシア島嶼部に成立したラピタ文化（BC1500-1000年）が、東方に移動して島々の多様な環境に適応変化した結果、ポリネシア文化が形成されてきた、その過程を考古学の方法から明らかにした。



ラピタ土器の分布 出所：国立民族学博物館展示場



2) オーストロネシア語族（台湾から東南アジア島嶼部、太平洋の島々に広がる語族 1000以上の言語）の人々が移動した軌跡を考古学、人類学、言語学などの専門家との共同研究から学際的に把握。これらの成果を総合して、**人類の拡散が、オーストロネシア語族の場合には、海洋技術の発展も関与しながら、初期食料生産者の移動・拡大に密接に関係していたことを明らかにした。**



二次移動

今から3300年前ごろに、ニューギニア北東部を経由して短時間のうちにオセアニア全域の島々に移動したのが、オーストロネシア諸語を話す人たちだった。ラピタ土器や家畜、栽培植物を携え、優れた航海術技術をもっていた。

言語学・考古学からみた
オーストロネシア語族の移動ルート
出所：国立民族学博物館展示場

農耕の重要性：人口と生産性

- 人口増加：農耕は大きな人口を支える。

	狩猟採集民	焼畑民	灌漑農民
テリトリーの広さ	数平方km	数ha	1 ha未満
人口密度	1 人以下	3－100人	高い

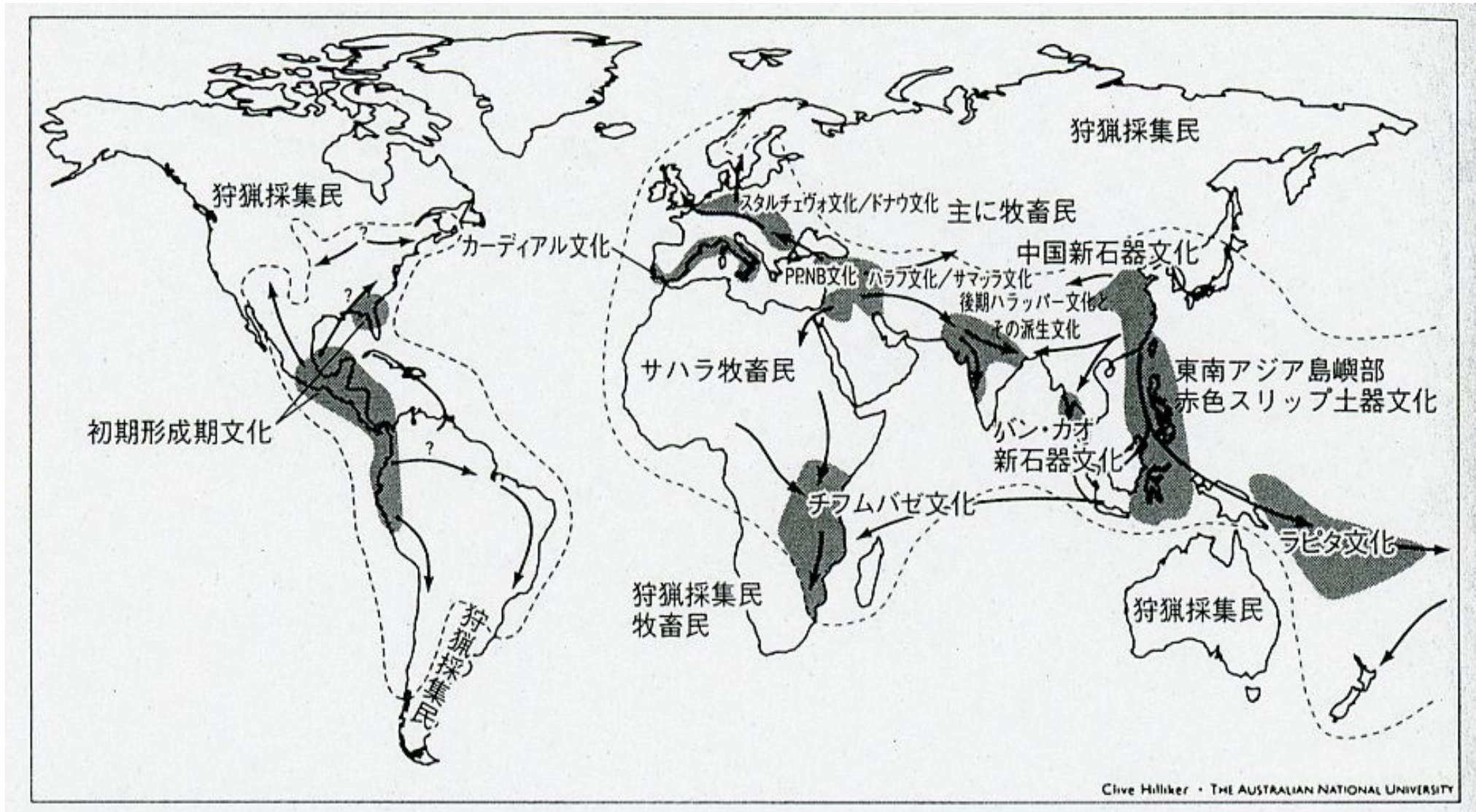
- 農耕民の人口増加
 - ：テリトリーの拡大速度、狩猟採集民の土地に移動していった際の状況
- 初期農耕にひきつづく人口増加
 - ：世界では、1千万人から5千万人へ（農耕開始以降）
 - ：日本では、縄文時代晩期から奈良時代に7万5000人から540万人へ
- 文明化の経済基盤

人類の拡散過程：『初期農耕拡散仮説』

- ・（物質文化が均質的に広範囲に分布）
初期農耕による生活様式の拡散・・・農耕起源地からおこり、
その拡散は人と言語の拡散をともなうという仮定
- ・ 考古学、比較言語学、形質人類学、考古遺伝学を総合した学問
- ・ 起源地周辺において、文化や言語が生み出される過程ではなく、
形成されたものが周辺地域に拡散する過程の解明

物質文化 均質的 農耕の初期の諸相

広範囲に分布 文化複合体
人類の初期移住と密接に関連



『初期農耕拡散仮説』（考古学と言語学：農耕の起源と拡散ルート）

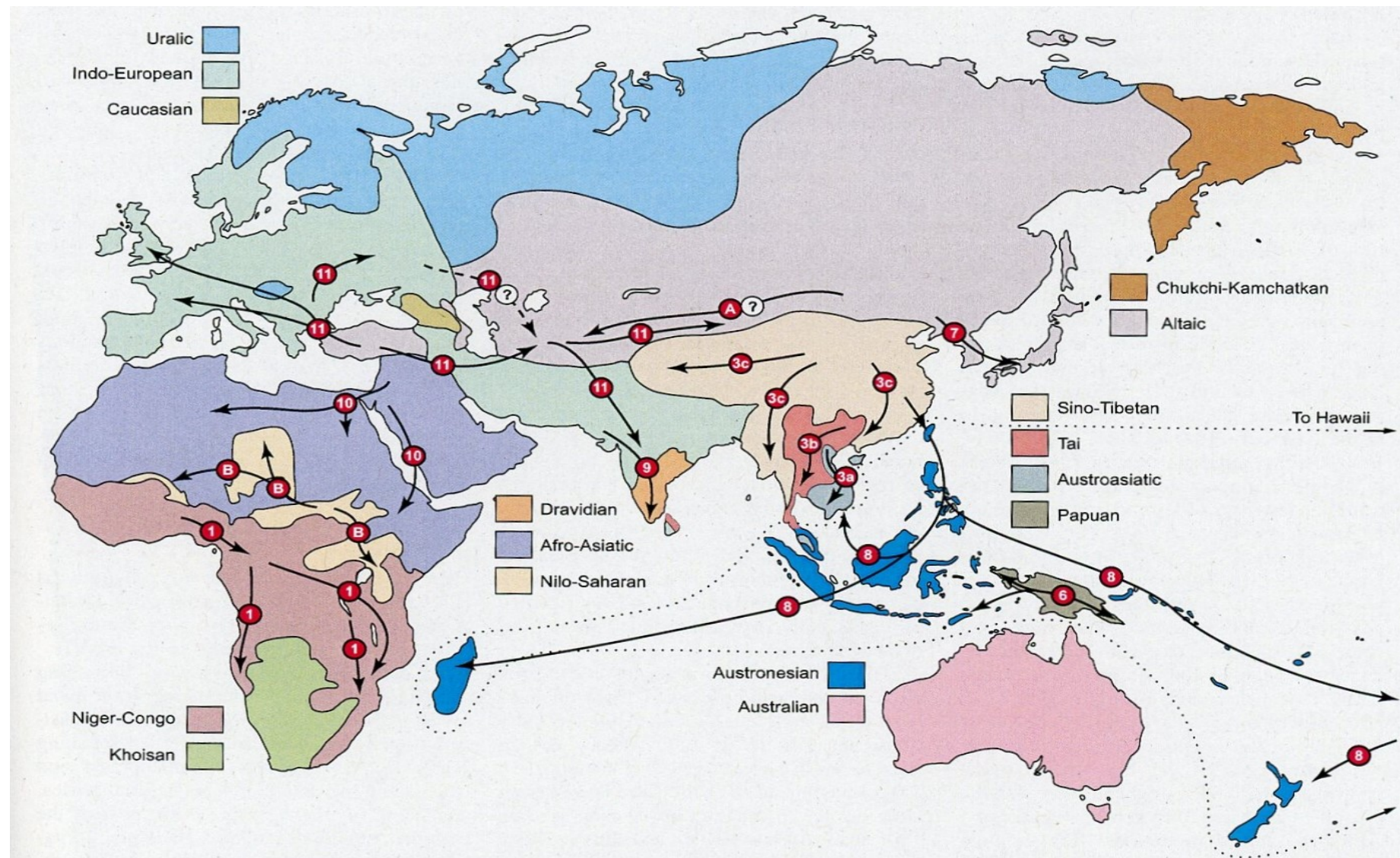
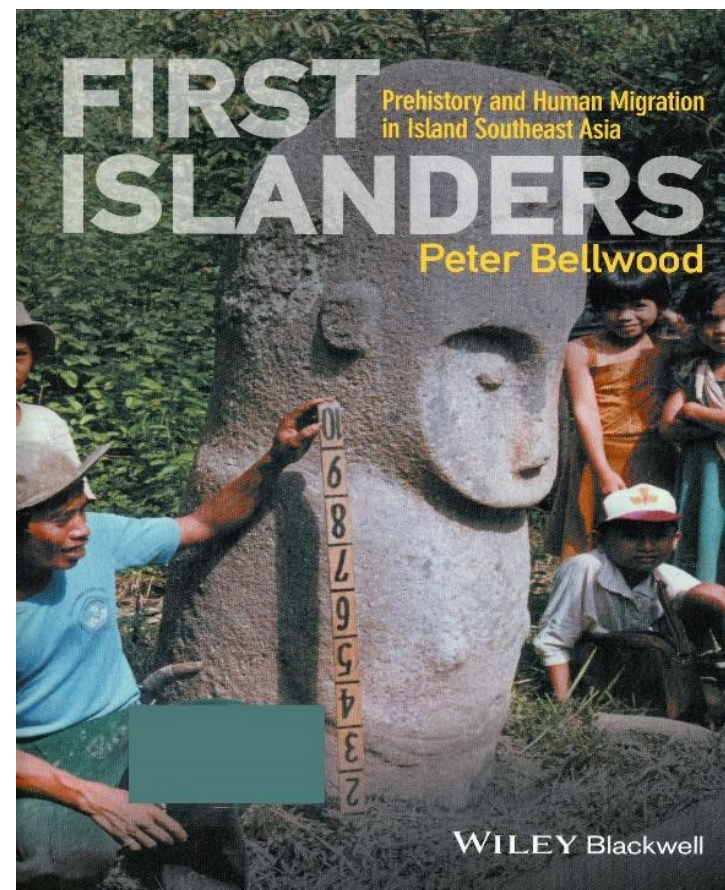
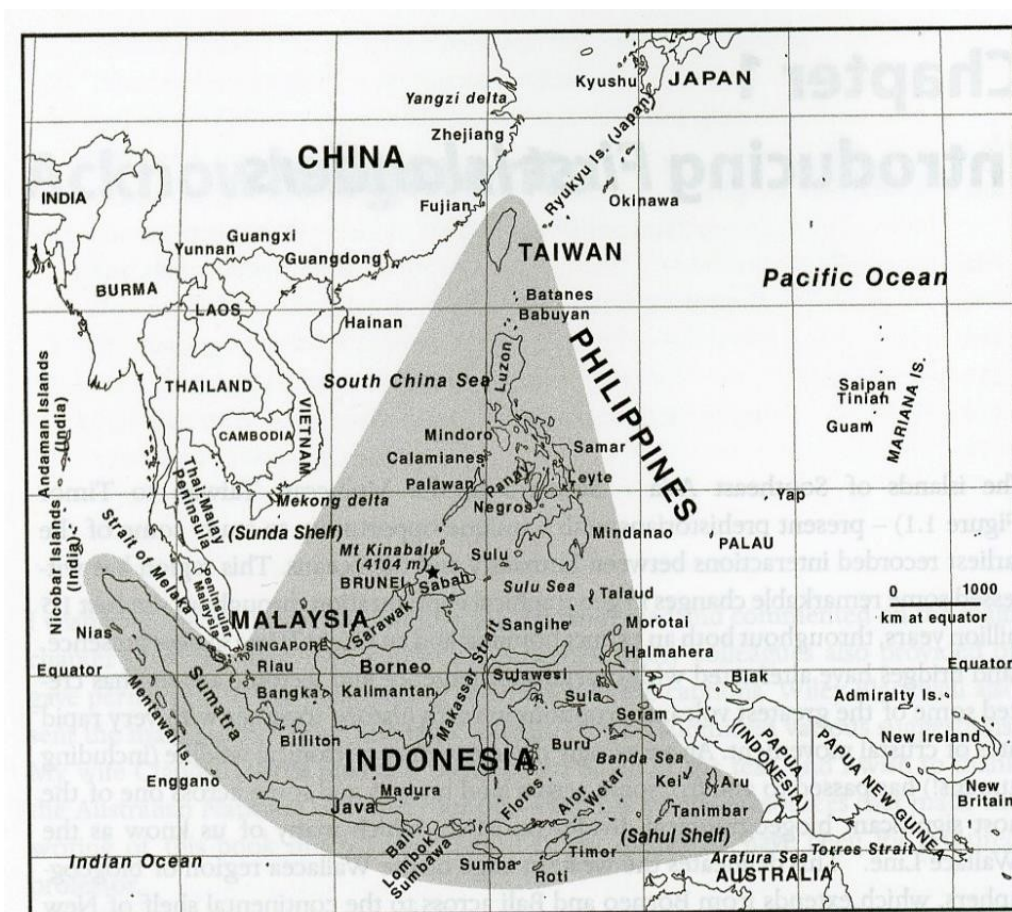


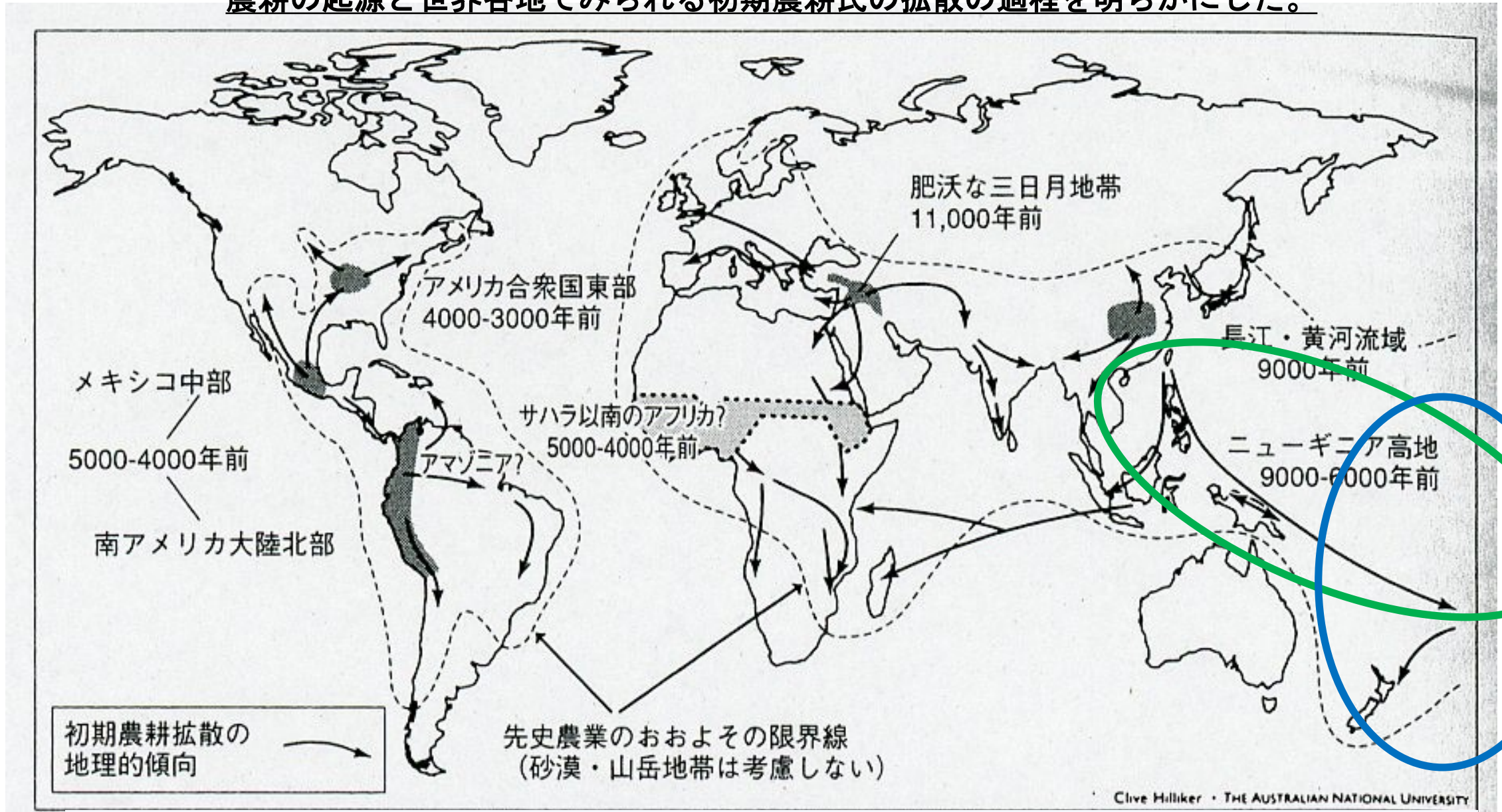
図 旧世界の言語ファミリーとその拡散。地図は87年の情報などをもとに作成。本文中で取り上げられている番号は、1（バンツー語）、3aから3c（それぞれオーストロアジア語、タイ語、シノ・チベット語）。6（トランス・ニューギニア語）、7（日本語）、8（オーストロネシア語）、9（ドラヴィダ語）、10（アフロ・アジア語）、11（インド・ヨーロッパ語）A（チュルク語）、B（ニロサハラ語）

東南アジアの島嶼部での人類の適応

人類は、約130万年前にジャワに到着したホモ・エレクトスやホモ・フローレンシスから現生人類に至るまで、島嶼部にも移動して適応してきた。博士は、主として東南アジアの島嶼部における考古学・古人類学的事例を用いて、人類の島嶼部への生物的・文化的な適応過程を学際的な視点から明らかにした。また、5万年前の農耕開始以前のホモ・サピエンスの移動、および南中国からのオーストロネシア語族の人や言語の移動などにも言及している。



【全体】 考古学と言語学の学際的研究による「初期農耕拡散仮説」を提唱し、
農耕の起源と世界各地でみられる初期農耕民の拡散の過程を明らかにした。



初期農耕民の拡散 (ポリネシア、オーストロネシア、地球全体というの3つの空間スケール)